

きんもくせい

病院だより

vol.115

令和5年
1月号



病棟から見える富士山

新年のご挨拶



新年明けまして、おめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から当院の運営に対し多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

当院は今年5月に開院10周年を迎えます。全国初となる掛川市と袋井市の2つの市立病院の統合によって誕生した当院が、中東遠地域の医療を守る基幹病院として10年目を迎えることができたのは、地域の皆さまをはじめ、地域の医療機関や関係機関の皆さまのご協力のおかげです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症との闘いは終わることなく、第7波が直撃した昨年7月には、当院で初の院内感染が発生し、新規の入院や救急診療の一部を制限するなど、大変厳しい状況に陥りました。このような中でいただいた温かい励ましのメッセージは、私たちに勇気を与えてくれました。地域の皆さまに多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことを改めてお詫び申し上げますとともに、温かいご支援に深く感謝いたします。

「人はつながるだけで力を得ることがある。絶望も諦観も、孤独の沼からあふれ出してくる。手を取り合うだけで、にわかに歩む道先が見えてくることがある。理屈も知恵も哲学も、皆あとからついてくる。」(夏川草介「新章神様のカルテ」より) これはコロナ禍の絶望の中、苦勞していたときにある人が教えてくれた言葉です。コロナ禍を経験して、病院内にとどまらず外に出て人や組織と繋がることで、不可能に思えることが可能になることを実感しました。昨年10月から運行を開始した中東遠地域初のドクターカー事業もその一つです。今後も外へ活動を広げ、職員一丸となって地域医療を支えるという使命感を持ち、地域の皆さまの命と健康のために全力を尽くしてまいります。

この新しい年が皆さまにとって良き年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

企業長・院長 宮地 正彦



プロフェッショナル チーム医療を支えるコメディカル

—病院の仕事人—

臨床工学室 × 臨床検査室

病院で働く人というと、医師や看護師を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、病院ではそれぞれの分野のプロフェッショナルたちが、患者さまに質の高い医療を提供するために働いています。

今回は、チーム医療を支えるコメディカル、臨床工学室と臨床検査室の皆さんに話を聞きました。共通していることは「誰かの役に立ちたい」そんな想いです。

臨床工学室

臨床工学室では人工透析室、手術室、血管造影室、内視鏡室などで、心電図モニターや人工呼吸器、人工心肺装置（ECMO）などの命に関わる医療機器の操作や点検をしており、65機種1,503台の医療機器を管理しています。



臨床工学室のココに注目

- ✓ **24時間365日対応できる体制**
24時間365日、緊急呼び出しや、急な業務の対応に備え、体制を整えています。
- ✓ **医療機器研修に注力し、医療安全に貢献**
年々高度化する医療機器へ対応するために、院内職員向けに医療機器研修を開催し、安全安心な医療の提供を支えています。
- ✓ **知識、技術力の向上のため資格取得を推進**
知識や技術の習得のため、経験年数が5年以上のスタッフは1人2資格以上の取得を目指しています。
- ✓ **患者さまとのコミュニケーションを大切に**
医療機器の操作だけではなく、患者さまと接する機会も多くあるため、コミュニケーションを大切にしています。
- ✓ **チームワークもばっちりです**
臨床工学室のメンバーは若い職員が中心のため、連携が取りやすく情報共有がしやすい職場です。地元の駅伝大会では、臨床工学技士でチームを組んで出場するくらい、チームワークもばっちりです。お互いに切磋琢磨し、安全で安心できる医療を提供しています。



▲看護師向けの医療機器の操作研修の様子

臨床検査室

臨床検査室の仕事は、大きく分けると「生理検査」と「検体検査」の2つです。

「生理検査」では、エコー検査（超音波検査）や心電図、脳波測定といった患者さまの身体を直接調べます。「検体検査」では、採血室で採った血液や、便、尿、腹水などの検査のほか、新型コロナウイルスや結核などの感染症の検査などの微生物検査、血液型の検査などの輸血検査、がんの診断を行う病理検査などを行っています。



臨床検査室のココに注目

- ✓ **正確で早い検査の実施と検査データの分析**
検体検査では、午前中は入院患者さま、外来患者さま、人間ドック・健診センターを受診された方の血液、尿、便などの検査をしています。午後は検査機器のメンテナンスを行っています。救急外来へ受診された患者さまや病棟で急変された方の検査は、24時間行います。
臨床検査技師は医師よりも早く検査の結果を見ることが出来ます。そのため、いち早く異常に気づき、素早い情報提供を行っています。
医療を取り巻く状況は日々変化しています。臨床検査技師という資格を取った後も認定資格や専門資格を取得して知識を増やしたり、学会に参加し日々勉強をしたりすることで、データを見る目を養っています。
- ✓ **安心して検査を受けていただくための取り組み**
エコー検査では超音波の伝わりを良くするためにゼリーを塗りますが、検査後に乾いたタオルで身体を拭いてもすっきりしません。温かい濡れタオルを準備するところから1日が始まります。
女性の胸のエコーをする場合は女性技師が、男性の陰囊のエコーをする場合は男性技師が検査するなどスケジュールを組み立て検査します。患者さまの気持ちに配慮しながら、お待たせしないように検査をしています。
- ✓ **待ち時間の短縮に努めています**
検体検査では、午前中の採血が込み合う時間帯に、採血を行う職員の数を増やし対応しています。

仕事人#1

臨床工学室 ～命を支えるエンジニア～ はぎわら ひろき 萩原 洋輝 臨床工学技士

私は人工透析室で働いています。人工透析室では、人工透析装置の操作や、透析中の患者さまの状態を観察しています。人工透析室では、機器の操作だけではなく患者さまと接する機会が多くあります。患者さまと「自宅で変わったことはなかったか？ 血圧はどうか？」など会話し、情報収集をしています。

誰かのために役に立ちたいという思いから、この仕事を選びました。透析患者さまが何事もなく安全に帰る姿を見ることに喜びを感じています。



▲萩原臨床工学技士

仕事人#2

臨床検査室(検体検査) ～検査結果を治療の架け橋に～ おおつか みわ 大塚 美和 臨床検査技師

臨床検査技師は影ながら病院を支えています。

検査は機械が行っているのでしょ？と思う方がいらっしゃるかもしれませんが、機械で判定ができない場合は、顕微鏡をのぞいて好中球はこの記号、赤血球はこの記号というようにキーボードを叩いてカウントをしています。

検体検査部門で働く職員は、外来で採血をする以外では患者さまと接することはありませんが、診療を支える縁の下での力持ちとして活躍しています。検査結果を緻密に正確に早く届けられるように心掛けています。



▲大塚臨床検査技師

仕事人#3

臨床検査室(生理検査) ～居心地がいい検査環境を～ ただた みよ 武田 美世 臨床検査技師

MRIやCTは放射線を通して客観的に全体像を見ることができ一方で、エコーでは技術者のスキルが精度に関わります。そのためエコー室の技師は日々の研鑽を欠かしません。

また、エコー検査はリアルタイムで第一結果を出せるのがメリットなので、多くの方にご利用いただいていることも日々の努力のモチベーションとなっています。エコー検査は、1検査あたり数十分かかることが一般的です。この時間が居心地悪い時間にならないよう工夫を怠らないようにしています。患者さまの治療に役立ったと感じるときはもちろんですが、あなたのような技師さんがいると嬉しいと言われることもあり、患者さまと触れあえるこの検査は生理検査技師にとってやりがいあるものです。

臨床検査室は、患者さま、医師、看護師など、みんな誰かの役に立ちたいと思う人の集まりです。検査には恐怖心がある方もいるかと思いますが、検査室は日々患者さまが心地よく検査を受けていただけるような環境作りを目指しておりますので、ぜひ安心していらしていただければと思います。



▲武田臨床検査技師



ここが知りたい！ 検査結果の見方

検査結果の見方が分からない…。そんなお悩みはありませんか？

当院における主な項目の基準値は、ホームページに掲載しています。ご活用ください。

※検査結果は、分析器や試薬により多少異なりますので、病院によって基準値が違います。



▲詳しくはこちら

解決！
素朴な

ギ モ ン



Q. 何本も採血するのはなぜ？

A. 血液が固まってから行う検査と固まらないようにして行う検査、遠心機にかけられる検査と遠心機にかけない検査など、検査項目によって条件が違うからです。

Q. 採血のときに血管が出ないと手を温めるのはなぜ？

A. 温めると血流が良くなり血管が太くなるため、採血がしやすくなります。血管が出にくいと言われた方は、採血前に手先を温めてみましょう。

Q. エコー検査で息を吸ったり吐いたり止めたりするのはなぜ？

A. 息を吸うと横隔膜が下がるため、横隔膜に引っ張られた臓器も下がることで見やすくなるからです。

寒い時期は心不全の悪化にご注意を

心臓の病気には、心臓の血管が詰まってしまう心筋梗塞や狭くなる狭心症、心臓の弁に問題がある弁膜症、心筋症、高血圧症などがあります。そして、これらの病気が原因で心臓の重要な役目である、全身に血液を送り出す機能が低下し、息切れやむくみなど、生活に支障が生じる心臓の状態を心不全といいます。心不全は徐々に進行していきますが、その程度は年齢や原因となる病気の状態により様々です。

これからの寒い時期は、心不全の状態にある心臓にとって問題となることがあります。それは、血圧の変動や風邪が引き金となり、弱くなっている心臓にさらに負担をかけてしまい、全身の血液循環が滞ることで、心不全が悪化することが多いからです。そこで今回は、この寒い時期の心不全悪化を防ぐためのポイントをお伝えします。

- 気温の変化は血管が収縮するため血圧が変動しやすくなり、心臓に負担をかけます。外出や入浴時など、暖かい所から寒い所へ移動する際は寒暖差が少なくなるように衣服や暖房器具などで工夫しましょう。
- 風邪などの感染症は、心不全の悪化につながることがあります。手洗いやうがいなどの感染予防策を続けましょう。
- 塩分は体に水分を溜めこみやすくします。心臓が耐えられる以上の水分が体に増えると、むくみや息切れの原因になります。減塩食を取り入れましょう。

以上のようなポイントを心がけて、この寒い時期を過ごしてみましょう。生活に気をつけていても、息切れやむくみなど体に変化がみられた時には、早めにかかりつけ医を受診することも重要です。

7階西病棟 慢性心不全看護認定看護師 大石 真由美



お知らせ - information -

2023年度採用職員募集

募集内容

職 種	申込締切日	試験日	採用日
助産師・看護師(経験者)	1月16日(月)	1月27日(金)	応相談
公認心理師			2023年4月1日
薬剤師			
事務職員	1月11日(水)	1月18日(水)	2023年4月1日
社会福祉士			

OUR PRIDE
MAKE NEXT



◆詳細は当院ホームページをご覧ください。

試験内容

助産師・看護師(経験者)、公認心理師、薬剤師: 作文試験、面接試験、適性検査
事務職員、社会福祉士: 1次試験: SPI検査、作文試験、集団討論
※1次試験合格者は2次試験で面接試験を実施

当院の特徴

身分は地方公務員です。研修制度や福利厚生が充実しているため、長く働ける環境が整っています。医療のプロフェッショナルとして、ともに高みを目指す、そんな皆さんをお待ちしています。

第37回医療市民講座を配信中

WEB

2023年1月31日(火)午後4時 まで
第37回医療市民講座をWEB配信しています。
テーマは「新型コロナウイルス感染症」です。
当院ホームページからご視聴ください。



11月の診療実績

1日あたりの患者数		
	入 院	395人
	外 来	1,193人
紹 介 率		91.3%
逆 紹 介 率		102.1%
病 床 利 用 率		79.0%
平 均 在 院 日 数		9.4日
手 術 件 数		518件
救命救急センター受診者数		1,145人
救 急 搬 送 件 数		485件

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。 [中東遠](#) [Q検索](#)

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL 0537-21-5555

